TPP交渉参加阻止に向けて　代表者集会を開催

▲TPP交渉の情勢を確認する参加者

JAは政府が参加を検討している、TPP交渉の参加阻止に向けて、12月7日に農業確立代表者集会を開催しました。

生産者や関係者など約100名が参加した集会では、はじめに袴田組合長が「TPPは中身の詳細や具体的な対策等について発表されていない中で、参加の賛成・反対だけが白熱している。JAグループでは、農業・医療・経済などに大きな損害をもたらすTPP参加に強く反対し、政府に対し行動を起こしていく。」と挨拶しました。

その後、秋田中央会からTPP交渉を巡る情勢報告がなされたほか、佐々木博子女性部長が「TPP参加反対運動を誓う」集会決議を宣言し、満場一致で採択されました。

また、拓殖大学日本文化研究所客員教授の関岡英之さんを講師に、「TPPが及ぼす国民生活への影響」をテーマとした特別講演が行われました。講演では、TPP交渉に参加することで①米国の内政干渉を容易にしてしまうこと。②JAを衰退させ、JA共済の資金や農林中央金庫の資金を米国等の経済界が狙っていること。③米国本位の不条理な損害賠償制度が適用されることなどが紹介され、参加者はTPPに対して理解を深めていました。

▲特別講演を行った関岡英之さん

今後の生育管理を確認　JA山うど部会の現地巡回

▲伏せ込み作業の手順を確認する生産者

12月5日、JA山うど部会（桜田和浩部会長）はハウス現地巡回および技術講習会を開き、白神山うどの生育状況や今後の管理などを確認しました。

富根ファームのハウスで行われた現地巡回には、生産者40名が参加し、伏せ込み作業などを確認。担当者は「株の充実はまずまずで、悪天候のため作業は遅れ気味だが、収量は平年並を確保できそう。」と話し、生産者は冬場の生育管理に向けて話し合いました。

冬期間の農機具の整備・点検はお済みですか？

組合員のみなさまへ

農作業が一段落した冬期間は、これまで頑張ってくれた、農業機械の点検・整備を行ってはいかがでしょう？

ＪＡ農機課では、随時点検・整備を受け付けておりますので、ぜひご相談ください!!

また、冬は多湿・低温のため、さまざまな機械でトラブルが起きやすい時期でもあります。

特に次の２点を注意してください。

①　動力噴霧機の水抜き

冬期間は中にたまっている水が凍り、その箇所が破損する可能性があります。一度、ご所有の動力噴霧機内の、水確認をおすすめします。

②　トラクターやコンバイン等のクーラント濃度の確認

トラクターやコンバイン等は、タンクの燃料残量が少ないと、温度差によって水滴が発生しやすく、サビの原因になります。また、クーラント濃度を点検することを、おすすめします。クーラント濃度が低いと、凍結してラジエターやエンジンの破損に繋がるので、注意が必要となります。

詳しい内容や点検・整備の依頼については
農　業　機　械　課　　58-3949
二ツ井・藤里農機センター　73-5022　まで